

【書 評】

## バスケットボール用語事典

(小野秀二・小谷究監修, 廣濟堂出版, 2017年, 224頁, 1500円+税)

片岡秀一<sup>1)</sup>  
Shuichi Kataoka<sup>1)</sup>

バスケットボールには様々な専門用語が存在する。それは、競技規則、コート上の特定の箇所を示す名称、戦術、個人スキルなど多岐に渡る。そして、各専門用語は、研究者、指導者、競技者がバスケットボールに向き合う中で大きな役割を果たす。

専門用語の中には、人によって異なる意味合いで使われている用語も少なくない。その事で、研究者は言葉の定義に立ち戻る必要があった。また、同一の用語であっても指導者によって異なる意味合いを持つ事も多い。同じ概念に対し、異なる用語で説明や指導を受けるプレイヤーの混乱を想像する事は難しくない。

本書は、上記のような状況に対して一石を投じようとする試みである。バスケットボール指導の最前線で活躍する指導者、プレイヤー、国際審判員、研究者が関わって編纂され、国内で発刊されたバスケットボールに関する文献を参考に、約1400語が収録されている。編者の構想や目的を理解するには「難解な用語に出会ったバスケットボール競技の研究者や現場の指導者ないしプレイヤーが、本書を手取る事でちどころに問題解決の糸口を発見できるのであれば、編者一同の目的は概ね達成された事になろう」という序文にある一節と読むと理解できる。

また、本書は「改定版」の発刊を前提としているという。それは「バスケットボールは、競技規則の改正、技術・戦術の変化によって大小の変化していく」(序文より)という、競技を取り巻く環境に対応する為である。つまり、本書が真に意図する事は、多様な活用法を持つ用語に対して一定の共通認識を与え、競技の発展に貢献するという「プロジェクト」に終わらず、生成発展していく新しい用語を集約、編纂し、バスケットボール界に提示していくという「システ

ム」の構築である。研究者、指導者、プレイヤー、審判員が、一つのプロジェクトに対して力を合わせる事も、バスケットボール界のコミュニティにとって有益だ。

新設プロリーグの発足、育成世代の競技環境の再整備、指導者ライセンスの整備になど、日本のバスケットボールはかつてない変革の渦中にある。これまで、バスケットボールとは関りの薄かった方々が、斬新な発想や行動力で大きな事業を運営して大きな成果を収めた事例も珍しくはない。仮に、競技に関する用語を知っているか否かで、新しいバスケットボール界を構築しようと熱のある人物と、バスケットボールに関わり続けた人間との間に乖離が生まれるのであれば、あまりにも不毛であり、人材交流の損失では無いか。

新時代の創造には、研究者と指導者、指導者同士、指導者とプレイヤー、事業運営者と指導者・プレイヤーら、あらゆる関係性の中での活発な意見交換や、本質的な議論が欠かせない。用語に対する統一の見解を与えてくれる本書籍が、より活発で本質的な議論の助けになり、日本のバスケットボールの発展に寄与すると確信している。

1) 株式会社アップセット・ゴールドスタンダード・ラボ  
UPSET Co., Ltd./Gold Standard Labo